

話し合い活動における習得・活用を意識した授業 —「話し合って決めよう」小学校4年生の実践から—

花 房 磨 紀

I 問題の所在

授業の中で話し合い活動を取り入れる学習場面はよくある。これまでの実践を振り返ってみると、子どもたちの話し合いは、話題そのものに意識が向けられていることが多かった。例えば、「お楽しみ会で何をするか。」という話し合いでは「サッカーがいい。」「バスケットがいい。」といった具合である。また、話し合いと言いながら、発表会のような形で終わってしまうこともあった。「私はこう考えます。」の繰り返しで、その後がなかなか続かないのである。

高橋俊三は、国語科における話し合いの指導は、「(1) 対事認識—事象に対する認識を、集団思考することによって、より深めるため。(2) 対他認識—他者に対する認識を、交信することによって、より深めるため。(3) 対自認識—自己に対する認識を、他者を照射することによって、より深めるため。(4) 対言認識—話し合うという言語活動に対する認識を深め、能力を高めるため。」ⁱという基本的な目的のために行われるとしている。

また、高橋は、「話し合いの方法—話し合いが積極的にできたとか、ほぼ全員が平等に発言できたとか—話し合いに参加する態度や形式に関する評価だけで、または、それが中心で評価が終わってしまうことがある。これはいけない。話し合いの形式に関する評価は「(4) 対言認識」に関する評価である。大切な評価の対象ではあるが、評価の対象はこれだけではないはずである。話し合いの基本的な目的には (1) (2) (3) の深まりがあったはずである。そもそもこの三つの内容的な課題の追求のために話し合い活動がもたらされたはずである。この三つの評価を重視しなければ、話し合い活動が創造的・生産的なものにはなり得ない。」ⁱⁱと述べている。

高橋が危惧するように、自分自身の実践の中で、内容を追及するために行われた話し合い活動に対する評価をどれだけ大切にしてきただろうか。子どもたちにどれだけ意識化させてきただろうか。話し合いの内容やどんな話し合いがなされてきたかという過程を子どもたちに意識化させず、あるいは話し合いの結果に着目させてきたために、考えの発表会で終わったり、話題そのものに着目したりしてきたのではないだろうか。

一方、話し合う場を日常活動に組み込んだり、「声の大きさのものさし」や話型等を教室内に提示したりし、子どもたちの話すこと・聞くことのスキルを高めていこう

という実践も様々試みてきた。形式面におけるスキルを習得させ、それらを活用する姿をねらったきのであるが、内容面においても、習得させ、習得したことを活用させていくことができないだろうか。

佐藤佐敏は、「習得」と「活用」をつなぐ授業づくりのヒントとして「活用力は学習を転移させる力である」と言う。そして、「学習したことの有効性を学習者が認識していると、学習の転移は起きやすい」ⁱⁱⁱと、「習得した学習内容を活用させ、有効性を実感させる授業」が大切であると述べている。また、上越教育大学学校教育実践センターで行われた水曜セミナー^{iv}では、「活用」には「near transfer」と「far transfer」があり、「near transfer」がより起こりやすく、「far transfer」が実生活の場面に近い活用であるとしている。

話し合い活動において子どもたちに習得させたい事柄は何か、どのように習得させていくといいのか、そして習得したことを活用する場を授業の中でどう仕組んでいくとよいのだろうか。そんな問題意識から、話し合いの内容や過程に着目させ、話し合い活動において習得・活用を意識した授業実践を試みる。

II 実践の概要

1 対象 小学校4年生

2 単元名 よりよい意見にまとめよう「話し合って決めよう」^v

3 単元の目標

合意点を見つけようとして発言し、話し合いによって物事を決める楽しさを知る。

4 単元で育てたい力と育む手だて

<話すこと・聞くこと>

自分なりの理由を付け加えて意見を発言しようとする力

○なぜそう考えるのかという理由を付け加えながらの発表

話し合う段階で表面的な話し合いにならないように、理由付けすることが重要と考える。また、その理由が話し合いを行う過程で共通点、相違点あるいは合意点を見つかる参考になるだろう。

友達の見解との共通点や相違点を考えながら聞こうとする力

○自分の考えを友達の発表につなげさせながらの発表

友達の意見と自分の意見を比べながら聞く力を身に付けさせたい。そのために発表の順番を決めず、友達の発表を受けて「似ている」「違っている」等とつなげながら発表させる。

<話し合い>

何について話し合っているのか考えながら、話題の中心からずれないで意見を言おうとする力

何について話し合っているのか考えながら、話題の中心からずれないで進行しようとする力

○話し合いのモデルの提示

教科書の事例等を活用させたり、モデルを示したりしながら話すこと聞くことのスキルや話し合いのスキルについて学習させる。

○話す・聞くチェックカードの活用

教科書等の話し合いのモデルから、話し合いにおいて大切なことをまとめ、チェックカードを作成する。そして自己評価や相互評価に活用していく。

○話し合いを振り返る場の設定

互いに話し合い活動の様子を観察し合い、アドバイスをし合う場を設定する。「発言する立場」「進行する立場」「話し合いをまとめる立場」から観察させる。これは、自分の話し合いを客観的に振り返らせる契機ともなり得るだろう。

○進行系の体験

話題の中心からずれないような話し合いの進行、話し合いをまとめることを全員に体験させ、意識化させていきたい。そこで、総合的な学習の時間や社会科など他教科の学習の中でも体験する機会を設定していく。

5 単元の構想

1次 教科書をモデルに「習得」

教材文を活用して話し合いで大切なことをまとめ、意見の言い方・聞き方・話し合いの進め方を学ぶ。

理由をつけて話す力

共通点や相違点を聞く力

話題からずれない司会
ずれない発言

2次 1次で習得したことを「活用」

1次で学んだ話し合いの方法を実際の話し合いに活用する場を設定する。また、相互評価を取り入れ、話し合い活動を意識化させ振り返る契機とする。

活用 国語科「お楽しみ会で何をするか」

3次 1・2次で習得・活用したことを活用

これまで学んだことを活用して、「1/2成人式」について話し合う。

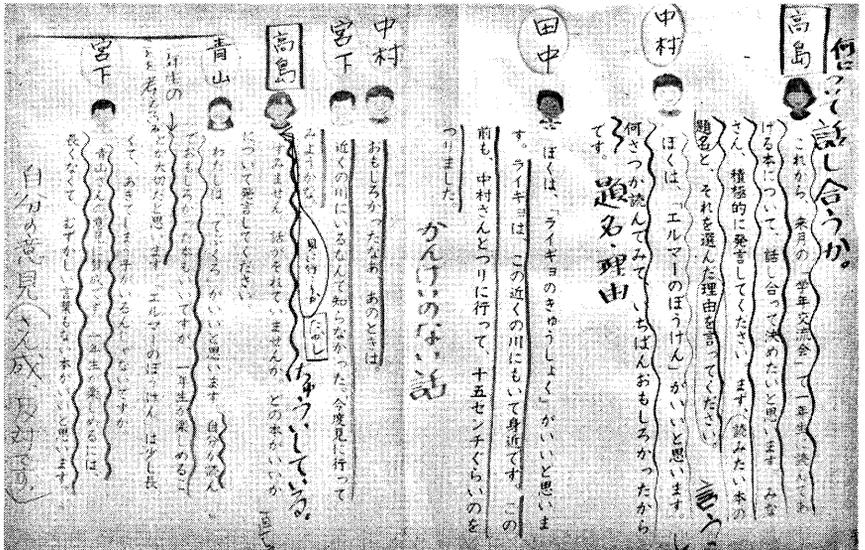
活用 国語科、総合的な学習「1/2成人式に向けて一何をするか」

6 授業の実際と考察

1次…教材文を活用して話し合いで大切なことをまとめ、意見の言い方、話し合いの進め方を学ぶ。

(1) 教材文をモデルにして

教材文をもとに、CDを聞いたり、役割演技をしたりしながら話し合いの様子を理解させた。また、着目する視点（意見を言う側、進行する側等）を与え、それぞれについて発言内容を振り返らせた。



この学習から、話し合いに大切なことをとらえさせ、話し合いチェックカードの作成へとつなげていった。

(2) チェックカードの活用

作成した「話し合いチェックカード」をもとに、教材に登場する人物に着目させ、その人物について評価させた。

★ 大切な人物	話し合った内容		話し合った内容	
	よい	△	よい	△
高島	話し合いの場を設けてくれた。		話し合いの場を設けてくれた。	
中村	話し合いの場を設けてくれた。		話し合いの場を設けてくれた。	
田中	話し合いの場を設けてくれた。		話し合いの場を設けてくれた。	
宮下	話し合いの場を設けてくれた。		話し合いの場を設けてくれた。	
青山	話し合いの場を設けてくれた。		話し合いの場を設けてくれた。	
宮下	話し合いの場を設けてくれた。		話し合いの場を設けてくれた。	

2次…1次で学んだ話し合いの方法を実際話し合いに活用する場を設定する。また、相互評価を取り入れ話し合いを振り返らせる契機とする。

2次では、「2月のお楽しみ会で何をするか」というテーマで話し合いを行った。

(1) 相互評価の活用

「話し合いチェックカード」を活用して、他の班の話し合いの様子をチェックしながら相互評価を行った。全体的に話し合いを見るのではなく、一人に着目して（意見を聞いたり言ったりする側の友達、進行係の友達）チェックを行った。「○よい」「△直したらいい」で評価し、△では具体的に直したらいいことも書かせた。また、友達の話し合いをチェックして、「今日話し合い名人」を挙げさせ、よかったところを具体的に書かせていった。

2次を終えて

相互評価での子どもたちの気付きを見てみると、発言する側への着目が大きく、「話し合う」という点まで関心が向いていない子が多いように感じられた。

そうたろう	○話をまとめている○手をあげて発表している△友達の意見をとりいれていなかった
あゆみ	○「はい」と返事をしている○理由をしっかりと言っている○進行係はまとめている△話し手を見ていない
ちあき	○賛成反対と意見を述べている○話題からずれていない○意見をいっぱい言っている○進んで手をあげている

【表①】話し合いの様子見て、友達のがよかったところ(○)や直したらいいところ(△)

この「2月のお楽しみ会で何をするか」という話し合いは、一つ一つを消去していく話し合い―「～は～だから外していいですか。」「賛成です。」という話し合い―が中心となり整理、まとめるということまでいってなかった。

のぞみ	ラグビーは、取り合いになって、けんかになると思うので外した方がいいと思います。
ちあき	のぞみさんと同じです。
たつや	それでいいですか。
みんな	はい。
ちあき	(スキーを指して)スキーとか雪がなかったらどうするんですか。
たつや	うーん、何をしようか。 王様クイーンドッチはどう？
のぞみ	それなに。何かに似ているとかさぁ・・・わかんない。
あゆみ	どういう感じなんですか？
ちあき	全然わかんないけど。
たつや	うーんと、ドッチはおいといて。雪がわかんないから、スキーはいいや。 じゃぁ、スキーは外していいですか。

そこで、話し合いのモデルとして、自分たちの話し合いの様子をビデオに撮ったものや録音した音声、文字化した資料等を提示した。

提示したモデル

① 前者の発言を受けてつなげるような発言、理由付けをしている発言に着目

けいすけ	ぼくは、王様ドッチがいいと思います。みんな好きだし、最近やってないからです。
あやの	私もけいたさんと同じで王様ドッチがいいとおもいます。みんなで楽しくできるからです。
こうへい	はい(挙手) ぼくも賛成だけどさぁ。すぐに王様が誰かばらしたり聞き出そうとしたりする人がいるからさぁ…。

② 話題がずれないで続けられている例

めい	今、出ているのは、手つなぎおにと助けおにです。
あやの	両方やったら？
けいすけ	でもさあ・・・
めい	ちょっと、手、挙げて言ってよ。
けいすけ	はい。(挙手) でも、おにごっこばっかだと疲れるし、同じようなものじゃないのがいいんじゃないですか。
ひろこ	はい(挙手) でも、この前だって、助けおにとリレーで走ってばっかだったじゃん。だから大丈夫だと思います。
あやの	疲れるっていうのは、けいすけがでしょ。休みをいれたりとかすると、二つできるんじゃないの。
めい	じゃあ、二つにする。でも、一つにする…。うーん…。

③ 進行係の発言に着目させる例

さとし	ここで意見を整理します。今、出ているのはこれです。(と指す。)このなかで2つにまとめたと思うんですが、意見のある人は言ってください。
ゆい	ゆいさん。 はい。 うんと、女子対男子のドッチボールで、女子は男子より弱いのでやめた方がいいと思います。
ゆうこ	賛成です。
りん	私も賛成です。
そうたろう	でも、女子の方が(人数)多いじゃん。
さとし	うん。けど、女子は男子より人数が多いし、逆に男子は女子より人数が少ないけど。あれ・・・。強い女子もいるし。うーん。 でも。 (沈黙) じゃあ、けしていいですか？
ゆうこ	いいです。
さとし	でも…。あとでけてもいい？

モデルを提示しながら、どこに着目してほしいか、教材文と照らし合わせるとどうか、チェックカードの項目に関係しているところはどこか等と、1次での学習したことを関連付け、意識化させた。

3次…これまで学んだ話し合いのスキルを活用して、「1/2成人式」について話し合う。

(1) 話し合いのテーマ設定の工夫

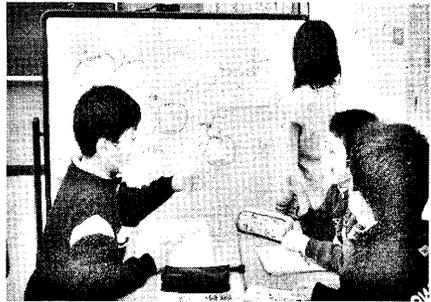
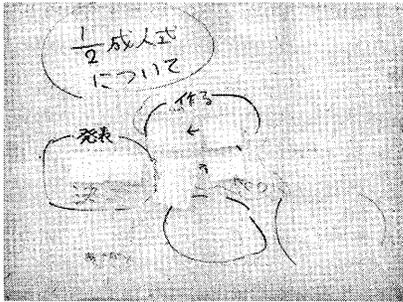
子どもたちにとって話し合う必然性があるテーマにするために「1/2成人式」をテーマとした。

(2) 理由に着目

話し合いがずれないように、総合的な学習で「1/2成人式」のねらいを「育ててくれた方に感謝する会」「10年を振り返ったり未来に向けて考えたりする会」「心に残るような、記念になるような会」にするという3つであると確認した。

(3) 付箋とホワイトボードの活用

一人ひとりが付箋に自分の意見を書き、それをもとに発表した。ホワイトボードを活用し、意見が書かれた付箋を貼ったり意見をまとめる際にグルーピングしたりした。



(4) 実際の様子から

○児童の話し合いの実際 (3班)

こうへい これから1/2成人式でどんなことをしたいか話し合います。
 めい みんなで写真をとりたいです。理由は大きくなってからも残るからです。
 けいすけ 手つなぎおにです。みんなで楽しく遊んだら思い出になるからです。
 こうへい キーホルダー作りがいいと思います。理由は記念に残るからです。
 けいすけ タイムカプセルは。記念になるじゃん。
 ひろこ どんな10年だったか振り返るのがいいと思います。理由は、みんなで言い合
 って反省できるからです。
 あやの 将来の夢をいうのがいいです。あと10年したら20さいだからです。

(略) 一人ひとりが考えたことを発表する。

こうへい この中で決めたいと思います。
 意見のある人、言ってください。
 あやの 写真は撮った方がいいと思います。記念に残るからです。
 けいすけ タイムカプセルは(3年の時に)もうつくってあるので、いいと思います。
 めい タイムカプセルっていつあけるの？
 けいすけ わかんない。

(略) どれがいいかということとその理由を発表する。

あやの 私は、らいまさんの言ったキーホルダーがいいと思います。やっぱり記念に
 残るからです。

(沈黙)

こうへい 今、でているのは、タイムカプセル、キーホルダー、写真、スーパードッチ、
 夢をいう、手紙を書く、歌を歌う、手つなぎおに、めあての発表、10年を振
 り返る、とか、うーと、こんなことがでています。うーんと…①

(沈黙)

けいすけ	はい。(挙手) スーパードッチはぬかしてもいいと思います。いつでもできるからです。②
めい	けいたさんと同じでスーパードッチは外した方がいいと思います。 お楽しみ会でもできるからです。
こうへい	スーパードッチは外していいですか。
みんな	はい。
ひろこ	遊びと発表は違うから2つに分けた方がいいと思います。③
こうへい	分けていいですか？ (進行係のこうへいが付箋を「発表」「遊び」という2つに分け始める。) 発表…10を振り返って、どんな大人になりたい、夢、手紙 遊び…手つなぎおに、スーパードッチ キーホルダー、タイムカプセルがまだ分類されていない。
こうへい	これは？(キーホルダー、タイムカプセル)
ひろこ	キーホルダーとタイムカプセルは遊びに入れていいんじゃないの。④
めい	それは、遊びじゃなくて、別に「作る」とかいう仲間をつくったほうがいいんじゃないの？⑤
ひろこ	あー
こうへい	「作る」にいれるよ？
みんな	いいです。

① 進行係…整理することの大変さ

最初、進行係はどんどん意見を出させ、ホワイトボードに意見が書かれた付箋を貼っていった。話し合いの途中で、一人ひとは「写真がいい」「タイムカプセルがいい」と発表するものの、これがいいあれがいいというだけに留まり、話し合いが整理されなかった。そこで、進行係はどうしていいか分からずに、とりあえず何かを言おうと、出ている意見を言い出した。進行係のこうへいに授業後、①の場面の映像を見せて、その時のことを振り返らせた。

こうへい 「今、でてるのは、タイムカプセル、キーホルダー、写真、スーパードッチ……でています。①」

→ (進行係をやって) どうしていいか分からなくなり、何か出ているものをいっただけ。

進行係こうへいのチェックカードを確認したら「意見をまとめている」「途中で意見を整理している」の項目が△であった。また、振り返りでも「意見をもう少し整理した方がよかった。」と書いている。

② 進行係に感心

進行係の①の発言の後沈黙があり、けいすけが手をあげて「スーパードッチはぬかしてもいいと思います。いつでもできるからです。②」という意見をした。この時、けいすけの発言は流れに沿っているとは言えず、その意図がよく分からなかった。しかし、後でチェックカードを確認したところ、「今日の話し合い名人」に進行係の名前を挙げていた。また、その理由が「話し合いが、しーんってしたときに、こえをだ

していたからいいな—とと思いました。」と書かれていた。そこで、けいすけにも授業後に映像を見せ発言を振り返らせた。

→しーんとなって、どうしようと思ったけど、こうへいさんが、いろいろとしゃべったから、なんか、言おうとした。

これらのことから、進行係のこうへいに感心していることが分かった。

この二人のやり取り、感想、自己評価を学級に紹介した。意見を言う側の思いや頑張り、進行係の大変さや頑張りも評価した。

③ 他者の考えを聞き、共通点や相違点、合意点を見つけながら話し合いをすること

ひろこ「遊びと発表は違うから2つに分けた方がいいと思います。②」

→スーパードッチは、お楽しみ会でもできるから外したけど手つなぎおにも遊びだし。だから、遊びは外したらいいと思って分けようと思った。

ひろこの提案により、班では発言の分類を始めた。2つに分けるという提案から、分けていった。ひろこの発言により、これまでの消去することが主流だった決め方から、分類して整理する方法を学習することができた。

一方、分類していくと「キーホルダー」と「タイムカプセル」が残ってしまった。そこに

ひろこ「キーホルダーとタイムカプセルは『遊び』に入れていいんじゃないの。」④

めい「それは、『遊び』じゃなくて、別に『作る』とかいう仲間をつくったほうがいいんじゃないの？」⑤

というやり取りがあった。めいの発言から、「二つに分ける」ことに着目するのではなく、内容に着目して分けることが大切であることを学習することができた。

④ 話し合いの収束に向けて

T 話し合いはまだ途中ですが、各班の話し合いの様子を、どんな話し合いだったか報告してください。

こうへい 今はスーパードッチをやめることになって、みんなの意見を発表グループ、遊びグループ、作るグループに分けました。

ゆうこ 写真をとると、ハイパードッチと歌という案になったんだけど、今は、歌を何にするか話し合っていました。でも、まだ決まっていません。

ちあき 遊びは、いつでもできるので遊びを全部やめました。で、それ以外のもの、似ているものとか、集めて、グループ分けをしました。

各班の進行係に話し合いの状況を発表させた。発表することでそれぞれの班の話し合いを整理したり、他の班の様子を知ったりすることができた。授業の途中で、このような活動を入れることも支援になると考えられる。

⑤ 相互評価（今日の話し合い名人）

ほとんどの子どもが「あやのさん」を挙げていた。その理由が「理由をしっかりと述べている」というものであった。あやのの発言の声は小さくははっきりしているとは言えないが、きちんと理由を述べていた。

一方、ひろこやめいの発言に着目している子がいなかった。出された意見を分類しながら話し合いを進めるモデルを示す形で、担任から学級の子どもたちに提示した。

Ⅲ 成果と課題

(1) 単元構成—習得・活用

授業の中で習得・活用を意識して単元を構想する際は、習得がねらいなのか活用がねらいなのかを指導者が明確に持っていることが大切である。また、習得・活用の場を細かに、スパイラルに展開していくことでより確かに習得されていくであろう。そうすることで最終的に実生活にも活用できる力へとつながっていくだろう。

また、子どもたちが習得しても、習得したことが意識化されていないと活用できない。本実践では、指導者が映像や音声を通してモデルを提示する支援を行ったが、どう習得したことを子どもたちに意識化させていくかが課題であるだろう。

(2) 話し合いチェックカードの活用

チェックカードを活用することで、話し合う時の発言や進行する上で、どう発言したらいいか、どう司会をしたらいいかという指標の一つになったと考えられる。また、相互評価を通して、自分や友達の話し合いの様子を振り返らせることができた。

(3) 視覚的な支援

話し合いは、書くこと等と異なり学習後は消えてしまう。本実践では、子どもたちの話し合いの様子を文字化したり、ビデオやICレコーダーに撮ったりして提示した。また、なされている話し合いが目で見ても分かるようにホワイトボードを活用した。

見えない話し合いを子どもたちにどう意識化させていくか、視覚的な支援が大切である。

(4) 共通点や相違点、合意点を見つけながらの話し合い

1/2成人式で何をやりたいかという提案だったので、写真やタイムカプセル、キーホルダーといった種類の共通点や相違点は、とらえられていたと考える。しかし、やりたいことは違うがやりたい理由は同じというようなことが起きていることに子どもたちは気付いてはいなかった。

子どもたちの発言の様子（内容は違うが理由は同じである発言）のモデルの提示が気付く契機になったのではないだろうか。

IV 最後に

話し合いをしても、賛成・反対という意見は言いやすいが、なかなか合意点を見つけることは難しかったと考える。本実践では、有澤俊太郎先生から授業を参観していただき、その点についてのご指導をいただくことができた。

合意の中にある不都合「～もいいと思うけど～」について

教科書の削除されている部分（CDにはあるが教科書には載っていない部分）を文字化して、合意の中にある不都合の話形についてモデリングすることが必要であり、それによって合意点を見付けていけるようになるのではないだろうか。

今後、ご指導いただいたことや実践の成果・課題を受けて、次の実践へとつなげていきたいと思う。

-
- i 高橋俊三 2001.11「国語科話し合い指導の改革—グループ討議からパネルディスカッションまで—」 p.51
 - ii 高橋俊三 2001.11「国語科話し合い指導の改革—グループ討議からパネルディスカッションまで—」 p.55
 - iii 佐藤佐敏 2009.3「活用で学ぶ意味を復活させる」『教育科学国語教育』No.705 pp.35-39
 - iv 2010.5.19 上越教育大学学校教育実践研究センターにて
 - v 国語四年下「かがやき」光村図書 平成17年度版

(新潟県上越市立黒田小学校教諭)